

といふ暴挙にすぎない。これは単に歴史的自殺であるのみならず、實際上不可能である。

『資本主義に歸れ』は一語どういふ意味であるか。それは第一に、國家の權力を資本家に返還することを意味する。何故ならば無産階級の國家が、資本家の利益を保護することは出来ないに極つて居るからである。この點を明かにすれば、資本主義へ歸れといふ解決策は、全然空想にすぎないことが判明する。一九一七年十一月に、露西亞の無産者が政權を掌握したのは、決して偶然ではなかつた。無産者が勝利を得たのは、資本家政府が、ひきり無産階級のみなならず、ブルジョア階級の間にも信望を失した結果である。露國資本家階級の最初の代表者グチコフ、ミリューコフ、テレスチエ、及び彼等のために社會主義的ほろかくしの役を務めたツ、レットリー、ケレンスキー、及びチルノフ等は、民衆の憎惡の的となつて容赦なく放逐された。ブルジョア政府は新しい組織を樹立する力を全然缺いて居つた。随つてあの場合、若し労働者が政權を掌握しなかつたならば、露西亞は、資本主義の支配の下にもあらず、さうして社會主義の希望も見えぬ、拾收すべからざる混亂状態に陥り、民衆のために露國の秩序を建て直す點に於て、到底若い無産階級に及ぶべくもない、外國資本家の餌食となつたに相違ないのである。

今日の伊太利や塊太利は、當時に於ける露西亞と同じ地位におかれてゐる。そして露國革命の經驗に依つて、社會主義は、資本主義が極度に發達した處に先づ起るものではないこと、いかに強大な資本主義的組織でも、資本主義的生産の結果としての類例のない悲慘を致すことは出来ず、却て老熟した資本主義國は、新しい資本主義國よりも民衆を酷く壓迫し得ることが明かにされた。

社會主義革命は資本主義的秩序がさほど強大に發達し切つて居らず、壓制の機關が完備して居らぬ國々で、まづ火蓋を切るものである。即ち其處が社會主義のつけこみ處である。或一國で無産階級がブルジョア階級を征服しても、忽ち他國の資本主義から壓迫を被ることは分りきつて居るので、一國だけで社會革命を行ふことはむづかしい。社會主義革命は全大陸に普及した時、始めて勝利を得ることが出来る。けれども社會主義革命は、全世界が合圖一つで一齊に起つようになるまで、とても待つてはゐられない。そこで實際は國際的動搖の結果たる一國の革命が、世界革命の先導となるのである。民衆の苦しみは、露國の統計なきを省みる暇がない。革命の噴火山は、所謂マルクス主義や統制を説いてきた連中は、たい自分等を全然マルクスを理解して居らぬことを證據立てるに過ぎぬ。一八八〇年代に、既に資本主義の最後が切迫したと信じてゐたエンゲルスは、或は目論見違ひをして居たかも知れぬ。けれどもその間いふことを示してゐるのである。斯様にマルクス主義を欲義に解釋することは、マルクスの精神に對して罪を犯すものであるが、これとても資本主義が平和的に發達して來た在來の時代としては、多少無理からぬ所もないではなかつた。けれども露西亞革命の現實を目のあたり見ながら、猶ほ此説を持することは、單に反革命的産物であるのみならず、實に反革命的空想にすぎないのである。いかなるえせマルクス主義的詭辯を以てしても、ツ、レットリーやダンの首をつなぐことは出来なかつた。ツ、レットリーやダンは、彼等の口吻によれば『社會革命を行ふだけに成熟して居らぬ』無産者に依つて、歴史の塵溜の中へ掃き捨てられた。彼等はその塵溜の中から、露國の労働者革命を罵詈雑言して居るが、その革命の進行を停めることは出来ないものである。露西亞の無産者が使つた武器を、歐羅巴も露國革命も亦、機を逸せず利用せぬ限り、露國革命は一時歐羅巴の資本主義のために征服されるかも知れぬ。けれども外、決してこれを介し得るものでないことは、メンシェウチも、歐羅巴における彼等の相棒も、決して否むことは出来ないのである。實に此革命は、帝國主義的戰爭の避け難い結果として生れたもので、その社會主義的性質は、運命の星のように、その上に燦然として輝いてゐるのである。

【七】 無産階級の獨裁

露國労働者の社會主義革命は、歐羅巴の労働者に對して、權力把握の道を示した。世界の資本主義新聞は、此革命